



ながさきロングライフデザイン
NAGASAKI LongLife Design

長崎県産業デザインネットワークでは、長い間、使い続けられてきた優れたデザインの商品にスポットを当て、そのエピソードを広く紹介していきたいと考えております。今回は、長谷川陶磁器工場の「片口シリーズ」をご紹介します。「片口シリーズ」は1983年から製造・販売を開始、35年以上の歴史を有する商品です。

片口シリーズ

1983年～（長谷川陶磁器工房）

片口とは、日用製品のひとつで、鉢の一方に注ぎ口があるものをいい、もともと酒や醤油などを別の容器に移すための器でしたが、使い手が様々な用途に使い分ける便利な日本の伝統的な食器として、古くから伝えられてきました。近年、目的を絞ったモノが主流となる中、この片口シリーズは、使い手の汎用性や収納性などが考慮されたサイズや機能が、様々な用途をイメージさせ、モダンクラフトの日用製品として食器業界にインパクトを与え、発売当初から現在まで続くロングセラーとなっています。

この片口シリーズは、陶磁器の伝統技法であるロクロ成形で一つ一つ手作りで製作されています。大量生産・大量消費のため、規格化された食器が主流だった時代に、柄付き片口と入子の片口ボウルは、手仕事による、柔らかくデリケートな表情と形によって、生活の質を求め始めた使い手のニーズにフィットし、今も多くの人に支持されています。

ロクロ成形という技法は、多品種少量生産で使い手の意見を聞きながら、リアルタイムで製作できる生産方法であり、クラフトマン・デザイナー（デザインする職人）のコンセプトを体現する最良の手段（技術）です。これらの手仕事は、プロセスが製品の中に見えることが大切で、それが製品の魅力につながり、作り手の感性と技術の成長と共に完成に近づいていきます。片口シリーズもその好例の一つでだと言えます。

普段使いの食器は、製造・販売メーカーの名称は知っていても、それを創ったデザイナーや職人は知られていない場合も多く見受けられますが、それら一つ一つの食器には、機能や目的、使い手のことを考え形に表すデザイナーや職人の思いが込められています。だからこそ、使い手が作り手の思いに共感することによって、暮らしの中で長く使い続けられるのです。

柄付き片口は、「'83日本クラフト展」において「日本クラフト賞」を受賞。片口シリーズは、現在も全国の百貨店、専門店、通信販売などで販売されています。

